



世界肝炎デー啓発活動 ～シンボルカラーで正面玄関をライトアップ～

肝炎医療コーディネーター 酒井由希子
7S病棟主任

世界保健機関（WHO）は2010年に、世界的レベルでのウイルス性肝炎のまん延防止と患者・感染者に対する差別・偏見の解消や感染予防の推進を図ることを目的として、7月28日を「World Hepatitis Day（世界肝炎デー）」と定めています。肝炎デーのテーマカラーはスカイブルーです。

当院では、世界肝炎デー週間に正面玄関をブルーにライトアップしました。また、28日には、院内にて啓発グッズの配布や、医師による無料相談ブースの設置を行い、11名の方が相談にいられました。C型肝炎、B型肝炎、肝硬変の患者さん向けに「肝臓病の理解のために」というパンフレットも作成しております。

消化器内科木阪医師を始め多職種で構成されている肝炎医療コーディネーターチームがご相談を承ります。愛媛県肝炎医療コーディネーターの『みきゃんピンバッチ』をつけたスタッフに、ぜひお気軽にお声かけください。



詳しくはホームページをご覧ください！



災害訓練を行って

特殊検査室師長 梅川由紀

9月は「防災の日」に合わせて自然災害の脅威や被災された体験談がクローズアップされ、防災意識が高まる時季といえます。

松山市民病院も「いつか起こる災害」に備え、9月2日（土）に職員100名（内看護師30名）、看護学生ボランティア15名が参画し、南海トラフを震源とする巨大地震（震度6程度）を想定しての実動訓練を開催しました。

訓練は外来部門と病棟部門に分かれて行われ、災害対策本部の設置や情報分析、各部門のマニュアル確認、模擬患者の誘導および移送、トリアージエリアの設置などを実践し、初動体制の検証を行いました。実際に屋外の

非常階段を昇降し患者動線を確認することで、30cm以上の段差を認識でき危険箇所の情報共有ができました。

今回の訓練は、各自の行動力や判断力など災害時の危機管理意識を高めるよい機会となりました。訓練結果を評価検証し、災害時に活かすことができるよう取り組んでまいります。

